

小学校 道徳 部会

部会長 中津原小学校 校長 小峠 英人
実践者 勾金小学校 教諭 木村 直美

1 研究主題

「確かな学力の向上をめざす道徳の時間の学習指導のあり方」
～心に響く道徳の時間を創る指導方法の工夫を通して～

2 主題設定の理由

(1) 社会の要請と今日的課題から

少子高齢化や核家族化による人間関係の希薄化、価値観の多様化、そして生命を尊重する心や自尊感情が乏しいこと、基本的な生活習慣が身につけていない等、児童を取り巻く状況は、現在非常に厳しいといえる。平成23年度より実施された学習指導要領は、子どもたちの現状に鑑み「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」等の「生きる力」を育むという理念を中核にすえたものである。

そこで道徳の時間においては、道徳的実践力を持った児童を育成することが求められており、そのために、道徳的価値の自覚を深めること、そして自己の生き方についての考えを深めることが求められている。

(2) 道徳部会の取組から

本部会では、これまで各学年における年間指導計画の見直しや児童の心に響く資料の選定について研修してきた。また、より効果的な指導ができるように体験や行事、他教科との関連を付け加えた指導計画の見直し、道徳の時間における各題材ごとの指導過程の作成等を行ってきた。さらに、道徳教育の重要性をふまえ、さらなる道徳の時間の充実を目指し、指導方法（指導過程・発問・話し合い・表現活動・書く活動等）の工夫や、体験活動を生かした道徳の時間の工夫を中心的な手だてとして研究を進めてきた。

3 主題の意味

(1) 道徳における確かな学力とは

一人ひとりの児童に「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」のバランスのとれた教育を実施することにより、「生きる力」を身につけた総合的な人間力を持った児童が育成されるという認識に立ち、学力を広くとらえることとする。特に、本部会では、生きる力の核となる「豊かな心」に焦点を当て、これを以下のように定義する。

「豊かな心」とは、人間がよりよく生きたいという願いを持って、かけがえのない自分自身を大切にするとともに、同じくかけがえのない他との関係を大切にしようとする「知・情・意」総体としての心である。

「知」 人間としてよき行為を判断する知性〈道徳的判断力〉

「情」 人間としてよき行為を思考する感性〈道徳的心情〉

「意」 人間としてよき行為を発動する意思〈道徳的実践意欲と態度〉

4 研究の目標

児童の豊かな心を育成するためには、「指導方法の工夫」と「体験活動の効果的な関連のさせ方の工夫」を通して、よりよい道徳の時間の指導の在り方を究明していく。

5 研究の仮説

道徳の時間において、次のような工夫を行えば、児童は自分の心を深く見つめ直すとともに他者への思いを広げ、豊かな心を育てていくであろう。

○ 指導方法（指導過程、発問、話し合い、表現活動、各活動等）の工夫

○ 児童の体験活動を生かした道徳の時間の工夫

（1）指導方法（指導過程、発問、話し合い、表現活動、書く活動等）の工夫

①資料提示の工夫～共感をかき立て、子どもを道徳資料の世界へ引き込む

ア 大型の絵や紙芝居等を用いる方法

イ テレビ、プロジェクター、録音等の視聴覚機器を生かす方法

ウ 補助資料（実物や写真、効果音など）を生かす方法

エ 地域のG T等の参画を得る方法

②発問の工夫～子どもの心を動かし、多様な考えを引き出す

ア 子どものこだわりや問題意識が生かされ、生み出される発問

イ 考える必然性があり、心が揺さぶられる発問

ウ 多様な考え方が生かされ、引き出される発問

③話し合いの工夫～子ども相互に多様な考えを学び合い、深め合う

ア 心の様子や考えの立場の色、類別、グラフ等による視覚化

イ 多様な意見、きっかけとなる意見を引き出す意図的指名

ウ 座席配置で立場を鮮明にする工夫

エ 全体討議やグループ討議等の形態の工夫

④表現活動の工夫～一人ひとりの考えが引き出され、いっそう深められる

ア 動作化 動きを忠実にまねをして、実感的な理解を深める方法

イ 役割演技 特定の役割を持って、即興的な演技を通して価値追求を深める方法

ウ 劇化 台詞や演技の真似をして、状況や心情を感じ取る方法

エ 疑似体験活動 セットされた条件の中での追体験的な活動

⑤ 書く活動の工夫～個別化の中で個性的な考え方が深められる

ア 吹き出しを取り入れた形式

イ 自分のことを伝える手紙・アドバイス形式

ウ 作業的、ゲーム的な内容を盛り込んだ形式

エ 絵や記号等を使って書く形式

⑥ 板書の工夫～子どもの思考を深める共通の「道徳ノート」を生かす

ア 話し合いの中心部分をクローズアップした構成

イ 意見の違いが捉えやすく、類型化して示された構成

ウ 場面絵や顔絵、心情図や心情曲線などを生かした構成

⑦ 「わたしたちの道徳」の活用

- ア 学校の学習の中で
- イ 日常生活の中で
- ウ 家庭や地域で

(2) 体験活動を生かした道徳の時間の工夫

①導入段階～学習の方向をつかみ、「めあて」を設定に生かす

- ア アンケートや実態調査票の提示
- イ 体験活動場面をVTRで提示

②展開前段～自分の体験を重ねて価値追求の根拠とし、より実感を持って道徳的価値を感得していく

- ア 資料と類似場面を日常生活からVTR等で紹介
- イ 自分の体験を基に登場人物の心情を追求させるための発問の工夫

③展開後段～道徳的価値に対しての内面的自覚を促す

- ア 自分の類似体験を想起させる発問の工夫
- イ 実態調査表による類似体験の紹介
- ウ 類似体験の作文による紹介

④終末段階～道徳的内容を確認し、これからの生き方に発展していく新たな心構えを見いだす

- ア 児童の作文の紹介
- イ 教師の説話による体験談の紹介
- ウ 類似体験の作文による紹介

(3) 副主題「心に響く道徳の時間を創る指導方法の工夫」について

○ 「心に響く」とは

道徳的な考え方、感じ方が子どもの内面に届き、価値に照らして今の自分はどうかあったかを深く見つめることである。これをもとに、前向きによりよく生きていこうとする意欲や態度が培われることになる。

○ 「心に響く道徳の時間」とは

教師が中心資料をもとに、様々な指導方法から価値を子どもと共に追求していく道徳の時間のことである。「要」の構成等が明確になされ、ねらいとする価値を子どもの心に響かせ、教師と子どもとで道徳の時間を創っていくために、どのような指導方法が直接あるいは間接的に有効であるか、研究を進めていくことにしている。

○ 「心に響く道徳の時間を創る指導方法の工夫」とは

いかにして、子どもの心に「よりよく生きることのよさ」を響かせるか。そのために、具体的には上の(1)①～⑦の7つの指導方法に即し、工夫していくこととする。

6 研究の計画（授業の計画）

(1) 主題名 「約束やきまりを守って」(第2学年)

内容項目【4-(1)公徳心】

(2) 資料名 「黄色いベンチ」(出典:「私たちの道徳」)

(3) 指導計画

○ 事前指導

- ・「私たちの道徳」p、122を使って、みんなで使うものに目を向けさせる。
- ・休み時間に、みんなで紙飛行機を作って飛ばす遊びをする。

○ 本時

- ・資料「黄色いベンチ」を使って、みんなのものを大切に使う心へ気づかせる。

○ 事後指導

- ・みんなで使うものを大切にしている児童を見つけ、賞賛する。
- ・「私たちの道徳」p、123を使って、みんなで使うものを使う時に大切なことは何かを書かせる。

(4) 本時のねらい

- 自分が持つ「みんなで使うものを大切にしようという気持ち」に気づかせる。

〈資料について〉

雨が降り続き、やっと晴れた日曜日。たかしとてつおはベンチを泥だらけにしていることにも気付かず、公園のベンチに上がって夢中になって紙飛行機を飛ばしていた。そこへ、女の子とあばあさんがやってくる。ベンチに座った女の子のスカートが汚れてしまったのを見て、二人ははっとするという内容である。

公德心の基盤にあるのは、不特定多数の他者への思いやりである。遊びに夢中になるあまり、そこに思いの至らなかった二人が、何に気付いてはっとしたのか、二人の思いについて考えることのできる資料である。

(5) 学習指導過程

学習活動と予想される児童の発言	指導上の留意点
<p>1 みんなが使うものについて、大切にされていない写真を見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものがかわいそう。 ・次に使う人が、困る。 ・気づいたけど、ほったらかしにしていた。 	<p>○学級にある背表紙のはずれたままの図書や、柄の割れたほうきなどの補助資料（実物や写真）を見せ、自分も、ものを大切にできていない体験があることに気づかせる。</p>
<p>みんなのものをつかう時に大切なことってなんだろう。</p>	
<p>2 資料「黄色いベンチ」を読み、登場人物の気持ちについて考える。</p>	

(1) 紙飛行機を飛ばしている二人の心情について話し合う。

【発問①】

紙飛行機を飛ばしている二人は、どんな気もちだったでしょう。

- ・楽しいな。
- ・もっと遠くに飛ばしたい。
- ・たかしくんよりも遠くに飛ばすぞ。

○ 紙飛行機を飛ばして遊んだ経験を想起させ、二人が遊びに夢中になってしまった心情に共感できるようにする。

(2) はっとした時の二人の心情について、自分に置き換えて会話する。

【発問②】

はっとした時、二人は心の中でどんなことを話したでしょう。
あなただったら、どうですか。隣の友だちと話してみましよう。

- ・どうしよう。
- ・あやまりに行こうか。
- ・知らないふりをしておこうか。

○挿絵のペープサートを用いて、自分に置き換えて会話をさせることで、より多くの考えを引き出し、多面的な見方があることに気づかせる。

(3) 二人の行動について話し合う。

【発問③】 この後、二人はどうしたでしょう。

- ・あやまりに行った。
- ・あやまれなかったけど、これからは気をつけようと思った。

3 みんなで使うものを使う時、一番大切なことは何か話し合う。

【発問④】 みんなのものを使う時に、一番大切なことって何だろう。

- ・人のことを考えること。
- ・周りの人に迷惑をかけないようにすること。

<p>4 図書司書補さんからのメッセージを紹介する。</p>	<p>○地域のG Tの参画を得て、悪いことばかりではなく、大切に使ってくれている人もたくさんいるという内容のメッセージを紹介し、自分も、ものを大切にする心を持っていることに気づかせる。</p>
--------------------------------	--

7 指導の実際

<授業の概要>

(1) 導入について

学級にあるやぶれた本や、われたテープカッター、おれたほうき、やぶれたボールなどを提示した。【資料1】

これを見てどう思うかを問うと、「らんぼうに扱ってこわれた。」「悪い。」「もっと大切に使う方がいい。」という意見が出た。

自分も使うがみんなも使うものであるという確認をし、本時はみんなのものを使う時に大切なことは何かを考えることを伝え、目当てを提示した。

(2) 展開前段について

資料を読む際には、机上には何も置かせず、読み聞かせを行った。「私たちの道徳」の場面絵を使いながら、登場人物の気持ちに共感できるようにゆっくりと読み聞かせた。

【写真1】

はっとした時の登場人物の心情について、自分に置き換えて会話できるよう、「あなただったら、どうですか。隣の友だちと話してみましよう。」と指示した。

児童は「どうしようか。」「あやまりに行こう。」「拭いた方がいいよ。」など、思い思いに会話をしていた。【写真2】

次に、会話したことを役割演技により発表させた。

教師が一方の登場人物を演じ、消極的な発言をすることで児童が持っている弱さを引き出すようにした。【写真3】

T : どうしようか。

C1 : あやまりに行こうよ。

T : いやだよ。おこられるかも知れないよ。

C1 : でも、あやまらなきゃ。悪いことしたんだから。

T : どうしようか。

C2 : 拭きに行こうよ。



【資料1】



【写真1】



【写真2】

T :でも、ベンチを汚してたなんて気づかなかったよね。
 C2 :夢中になってたからだよ。
 T :だからわざとじゃないでしょ。やめようよ。
 C2 :でも迷惑かけたんだから拭きに行こう。

T :どうしよう。
 C3 :どうしようか。
 T :おこられるかも知れないね。
 C3 :にげようか。
 T :にげよう。



【写真3】

多くの児童は、「あやまる。」「拭きに行く。」など、積極的な意見を出していた。教師の消極的な発言には「だめでしょ。」などの意見がフロアから出ていた。

一方で、「逃げる。」「知らない顔をする。」という意見を出した児童もいた。

次に、「この後、二人はどうしたでしょう。」と問いかけると、「謝りに行った。」「拭いた。」という発言が返ってきた。「逃げなかったかな。」と問い返すと、「逃げなかったと思う。」「その方がいいから。」という発言が返ってきた。

(3) 展開後段について

みんなで使うものを使う時、一番大切なことは何かを一人ひとりが考えてワークシートに書き、その後、話し合った。

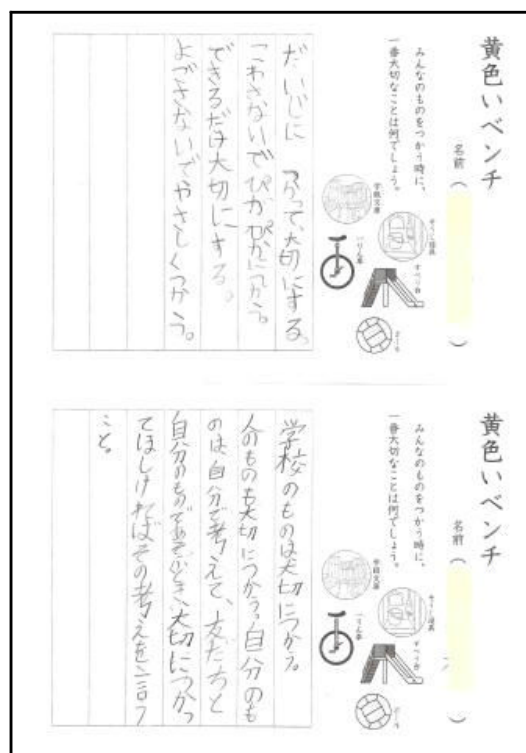
児童からは、「大切に。」「よごさないように。」「ピカピカに。」「こわさないように。」「マナーを守る。」などの意見が出た。

そうするとどうなるかと問うと、「後に使う人が気持ちよく使える。」「自分も気持ちよくなる。」「みんな気持ちいい。」という意見が出た。

(4) 終末について

みんなで使うものの一つである学校図書について、図書司書補さんからのメッセージを紹介した。内容は、以下の通りである。

「いつもたくさん本を読みに来てくれてありがとう。毎日沢山の本を見ていると、乱暴に扱われたか、丁寧に扱われたかがすぐに分かります。乱暴に扱われて破れた本と、何度も読んでぼろぼろになったけど大切に扱われてきた本とは、見ただけで違いが分かるんですよ。勾金小のみんなは本を大切に沢山読んでくれますね。」



【資料2】

図書室の本だけでなく、教室の本や掃除道具、ピアノカ、ボール、滑り台やブランコ、一輪車も自分だけでなくみんなのもので。みんなが気持ちよく使えるように、優しく大切に扱ってくださいね。

それではまた、本を借りに来てくださいね。

図書室より」

子どもたちは、「へえ、そうなんだ。」「ありがとうございます。」などと言っていた。

「みんなの中にある大切にもものを使う気持ちが司書さんに伝わってるみたいだね。これからも、みんなでするものを大切にしていけるといいね。」と話し、授業を終えた。



【写真4】

8 成果と今後の課題

(1) 成果

- 「私たちの道徳」を持たせず、紙芝居のようにして読み聞かせを行ったことで、児童が集中して教材の内容を知ることができた。

【(1) ① 資料提示の工夫 -ア 大型の絵や紙芝居等を用いる方法】

- 「あなただったらどうですか。」という補助発問を行うことで、自我関与を深め、児童の本音を引き出すことができた。

【(2) ②展開前段 -イ 自分の体験を基に登場人物の心情を

追求させるための発問の工夫】

- ペープサートを使った役割演技をすることで、児童が登場人物の心情に共感し、児童自身の心情や判断が主人公に託して語られることができた。また、役割演技の中で、教師が消極的な発言をすることによって、主人公が持っているであろう弱さを代弁し、児童にも共感させることができた。

【(1) -④ 表現活動の工夫 -イ 役割演技】

- 終末段階で、司書補さんからのメッセージを紹介したことで、児童は新鮮な気持ちで熱心に聞き入っていた。

【(1) -① 資料提示の工夫 -エ 地域のG T等の参画を得る方法】

(2) 今後の課題

- 計画的な時間配分を行い、中心場面でしっかりと考える時間を確保する時間がある。
- 終末段階では、ねらいとする価値に焦点化した適切な内容を考える必要がある。
- 児童の考えの経過が見とれる効果的なワークシートの工夫が必要である。
- 「わたしたちの道徳」の日常的な活用方法の検討が必要である。

◎ 参考文献

- ・小学校学習指導要領解説 道徳編
- ・道徳教育実践ハンドブック (改訂版) 福岡県教育委員会
- ・小学校道徳 「みんなのどうとく」教師用指導書・研究編 学研

どうとくアンケート

名前（ ）

1 あなたは、なかよしの友だちがいますか。（丸をつけましょう。）

はい いいえ

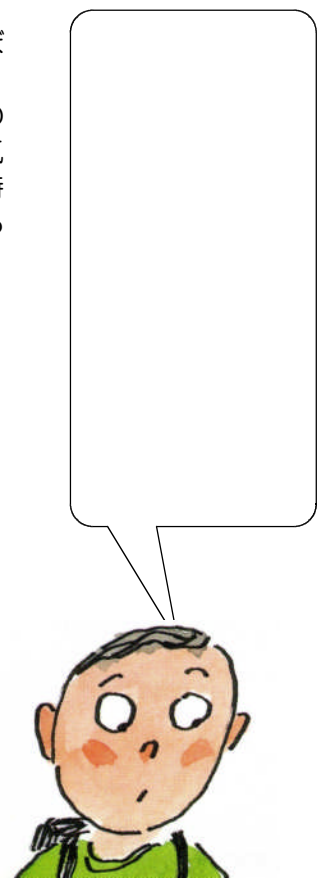
2 どんな時、友だちがいてよかったなあと、思いますか？

3 あなたは、友だちがいけないことをした時、どうしますか？

4 友だちに注意をしたことが、ありますか？

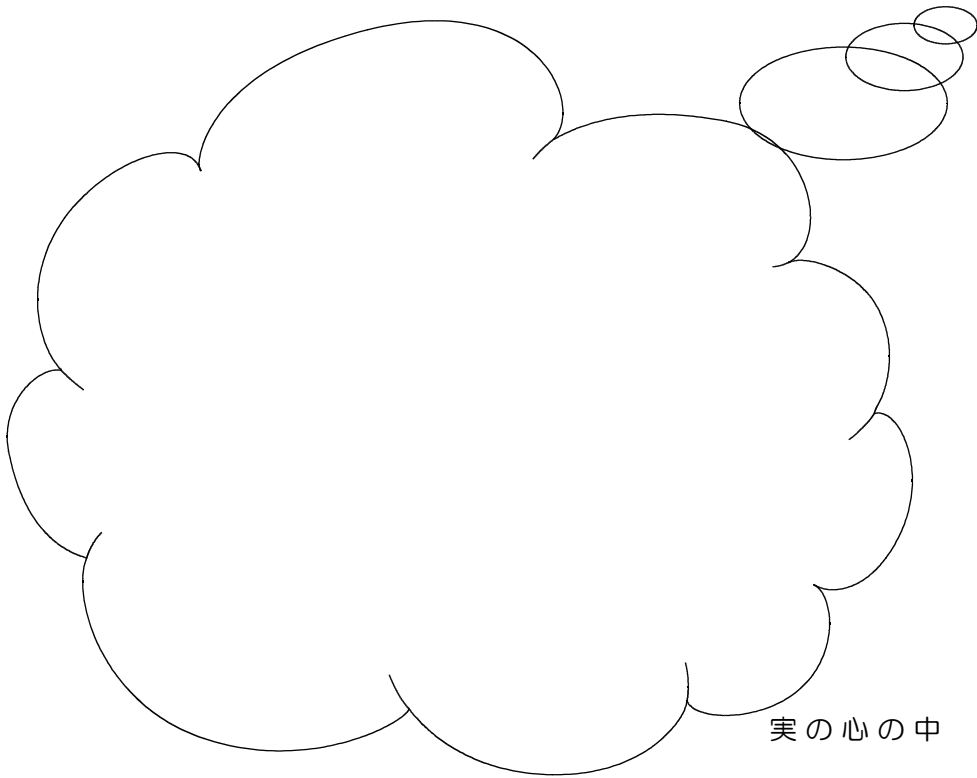
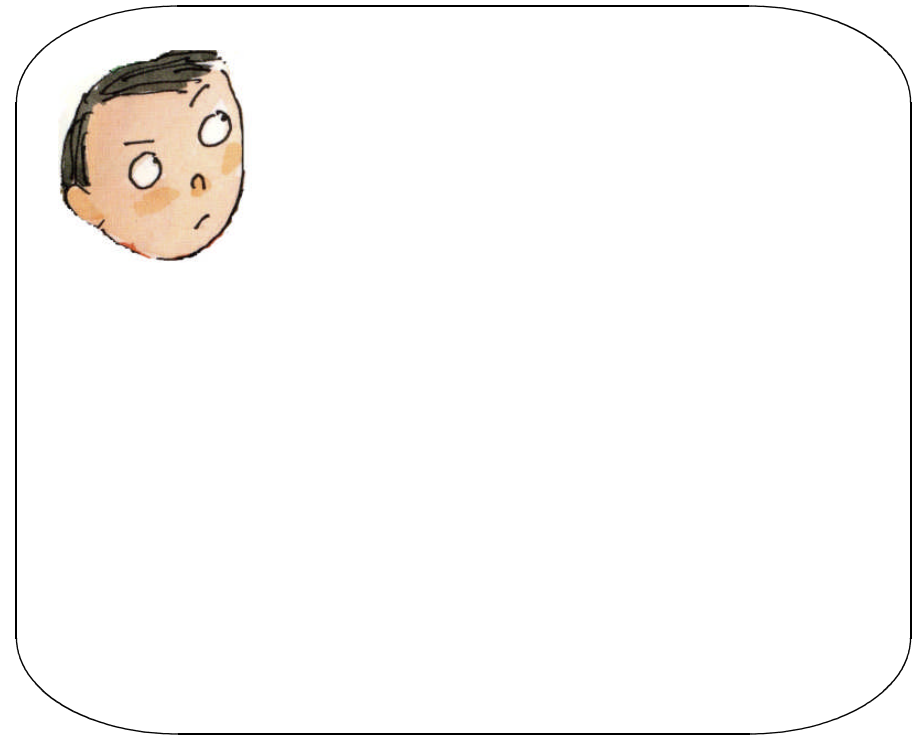
5 なかよしの友だちが、こっそり学校で宿題をしていました。あなたは、どうしますか？

① 実くんが次のように言ったときの「ほく」の気持ちを考えてみよう。



実

ほくの気持ち



実の心の中

② 「ほく」になったつもりで、実くんの手紙を書いてみよう。

A large rectangular area with a solid outer border and four vertical dashed lines inside, providing a space for writing a letter.

友だちについて考えてみよう

なかよしだから



実くんとなかよし

だめだよ、自分でやれよ。 ※貼る

- ・友だちじゃないか。
- ・投げ方教えてあげたじゃないか・・・。

なかよしだから、なお教えられないよ。 ※貼る

- ・なかよしだったら教えてくれないじゃないか・・・



ぼく



実

- ・自分でやらなきゃ力にならないだろ

なかよしだからこそ、教えてくれないこともある。

← ためにならないから

本当の友だちは、自分のことを考えて注意してくれる。

発問計画 10:40~11:25
 最初に、以前のアンケートを配っておく。机の中にしまっておく

10:40	<ul style="list-style-type: none"> • どんな時に、友だちがいて良かったと思いますか？ • よい友だちとはどんな友だちですか？ • この間の アンケートの結果を 紹介します <ul style="list-style-type: none"> → 友だちは、いっしょにあそぼと誘ってくれる 11人 → 助けてくれる 12人 優しい 10人 → 教えてもらえる 5人 → はげましてくれる 5人 おもしろい2人 <p>☆ 確認しておく 「<u>助けてくれなきゃ友だちじゃないね</u>」</p>
10:45	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">友だちについて考えてみよう</div> <ul style="list-style-type: none"> • いまから、「なかよしだから」というお話を読みます 二人の男の子が出てきます <u>紙①をはり、なかよしであることを押さえる。</u> • 「なかよしだから」を表だけ読む
10:50	<ul style="list-style-type: none"> • ②を貼りながら 『だめだよ、じぶんでやれよ』と言われたとき、ぼくはどんなことを考えていたでしょう <u>教えてくれないことが、くやしいことを押さえる</u> • 役割演技をしてもらいます。先生が実くんをするのでだれか、「ぼく」をしてください。 ☆確認「<u>助けてくれなきゃ友だちじゃないね</u>」
11:00	<ul style="list-style-type: none"> • 続き(裏面)を読む。
11:10	<ul style="list-style-type: none"> • {③ぼく} を貼りながら → 「紙にみんなも書きましょう」 実くんが「なかよしだから、なお教えられないよ」といったとき、ぼくはどんなことを考えていたでしょう。 ☆確認「<u>助けてくれなきゃ友だちじゃないね</u>」 →ワークシートに書かせる。 発表
11:20	<ul style="list-style-type: none"> • {④実くん} を貼りながら → 実くんは心の中でどんなことを考えて、「なかよしだからなお教えられないよ」と言ったのでしょうか。 「なお」ってどういうこと？ 挿絵で笑っているのはなぜ？ 最後にだんだんわかってきたとあるが、なにがわかってきた？ →ワークシートに書かせる。 発表
11:25	<ul style="list-style-type: none"> • 「ぼく」になったつもりで、実くんの手紙を書いてみよう。
	<ul style="list-style-type: none"> • 以前書いたアンケートを読み返し感想を発表する。 → 違いを押さえる
	<ul style="list-style-type: none"> • 教師の説話